

■はじめに

北上駅は1890年に黒沢尻駅として開業し、1924年の横黒線（現：北上線）全線開業を経て1954年に北上駅に改称されました。その後、1971年に東北新幹線の北上駅停車が決定し、1982年に新幹線駅が開業しました。この新幹線開業の契機を最大限に活用しようと、北上開発ビル（大規模スーパーやホテルを核とする複合施設）や駅前広場などが整備され、今日の北上駅西口が完成しました。

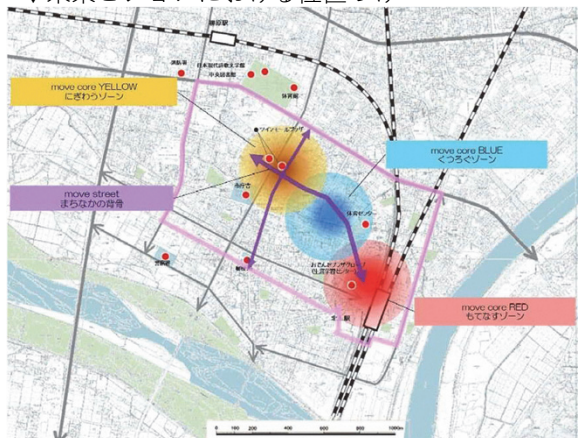
北上開発ビルは、開業後のキータナント撤退、それに代わる公共施設などの入居を経て運用を続けてきたものの、老朽化も進んでいます。また、同時に整備した道路や駅前広場も現代のニーズに合っておらず、問題を抱えています。

駅西口は市の玄関口としての重要な場所であり、市民や来訪者にとって快適な駅前へと変貌させる必要があります。このグランドデザインで示すものは、今後の西口の再生の大きな方向性を北上市としてとりまとめたものです。

■上位計画における位置づけ

北上駅西口も含む駅周辺は、都市計画マスタープランにおいて、市全体のまちの活力とにぎわいを創出に向けて、人・モノ・情報が集まる都市拠点に位置づけられています。また、未来ビジョンでは、北上駅周辺地区は、「エントランスに相応しい機能と景観の再整備が必要」な地区と位置づけられています。

▼未来ビジョンにおける位置づけ



出典：地区再生計画

■北上駅周辺の現状とニーズ

北上駅西口の現状や市民などのニーズは以下のように整理されます。

土地利用・都市機能 景観緑 交通	- 北上開発ビルの老朽化等による魅力の低下が生じているものの、公共交通結節点の強みを活かした都市機能の集積が行われています。 - 宿泊機能だけでなく、北上駅前病院が新たに開業したり、北上開発ビル内にクリニックが開業したりするなど、医療機能の集積も進んでいます。
	- 北上開発ビルは築40年程度を経過し、新耐震構造ではあるものの、老朽化が進行しており、景観上の魅力が著しく低い状況となっています。 - 北上駅西口駅前広場は緑が少なく、舗装やストリートファニチャー等が老朽化しており、景観面での魅力が低い状況となっています。
	- 現在の西口の駅前広場の空間構成は自動車中心であり、歩行者にとって快適なものとはなっていません。 - 公共交通の運行本数は長期的に減少傾向であり、駅前広場の運用は効率的とは言えません。さらに、駅から中心市街地方面の動線は自動車動線により分断されており、回遊性にも問題があります。
市民アンケート 学生WS 職員WS	【目的】北上駅西口の利用実態や今後導入が望ましい機能について把握する 【方法】市民（15～65歳）1,000人（無作為抽出）、駅周辺ホテル宿泊者を対象にインターネット回答 【結果概要】①駅西口の利用頻度は極めて低い（回答者の約半数が月に1度も利用しない） ②その中でもほぼ毎日利用すると回答したのは15歳～20歳の若者 ③利用シーンは、飲食、趣味・娯楽などであるが、送迎や通過するだけの方が多い ④利便性・シンボル性・居心地など、全ての側面で不満を抱く方が多い ⑤自動車アクセス性に加えて、商業機能や教育・学習機能、交流機能のニーズが高い など
	【目的】北上駅西口の日常的な利用者である学生のニーズを把握する 【対象】北上市内の全4高校の生徒（有志）によるワークショップ 【結果概要】①待ち合わせ場所などとして駅前を活用するものの、積極的に活用される場所ではない ②誰でも気軽に使える空間（学習機能、待合・休憩、軽飲食機能など）へのニーズが高い ③休みの日も来なくなる空間（交流活動、親子で使える遊び場など）へのニーズも高い など
	【目的】駅東西の役割分担や周辺施設との競合関係にも配慮しながら西口に必要機能を議論する 【対象】北上市役所の若手・中堅職員によるワークショップ 【結果概要】①hoKko等の公共施設にも配慮したレクリエーション機能の強化 ②さくらホールや中央図書館との役割分担を踏まえた市民活動・生涯学習機能の強化 ③駅東口への観光関連機と連携した来訪者に対する地元情報発信機能の強化 など

▼現在の駅前広場と北上開発ビル



■北上駅周辺の整備課題

これらのことを踏まえ、北上駅西口の整備課題を以下のように設定します。

課題1

人が集う都市機能の導入

- 市民が通過するだけの駅前から、「また来なくなる」魅力ある空間への転換が必要です。
- 周辺や中心市街地、市全域の「にぎわいを牽引する都市機能の導入」が必要です。

課題2

市のエントランスに相応しい人をもてなす空間への再編

- 本市の顔として、シンボリックな空間を形成し、市民が集い、憩い、北上の魅力に触れられる空間づくりが必要です。
- 駅から中心市街地への広がり配慮した「一体的な空間再編」が必要です。

課題3

人中心の駅前空間に向けたインフラの再編

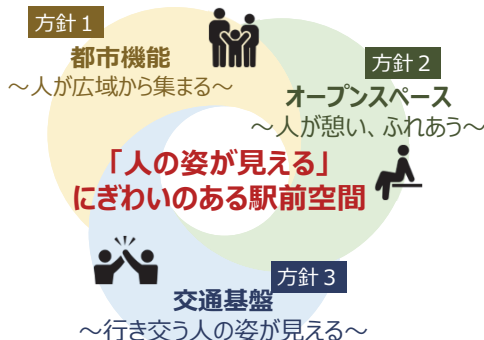
- 駅前広場の再編や歩行者・自動車の動線を見直し、人中心の安全で快適な駅前空間の創出が必要です。
- 各交通モードの乗り換え利便性向上に加え、中心市街地方面に人を誘う回遊性の向上が必要です。

■北上駅西口地区の整備方針

北上駅西口周辺は、本市が目指す都市像である「あじさい都市」の都市拠点の核となるべき、市を代表する場所であり、平日休日を通して多様な人の活動を受け入れるべき場所です。現状は、都市機能や都市基盤の問題により、人が集まる動機に乏しく、滞留する空間も不足しているために人の顔が見えにくい駅西口ですが、「人の姿が見える」にぎわいのある駅前空間をコンセプトに、圧倒的に人が中心の安全・快適な街に再生していきます。

北上駅西口地区の再生にあたり、人が集う都市機能の導入、人が憩うオープンスペースの充実、人が行き交う交通基盤への再生の3つの方針を掲げ、機能・空間の再編に取り組めます。

▼駅西口の整備コンセプト



北上駅西口地区の空間再編の考え方

北上駅西口を人が中心の空間に再生していくため、戦略的に北上駅西口の骨格を再編していきます。この再編をきっかけに、駅西口の魅力を高めていくことはもちろん、ツインモールプラザや市役所方面への動線をより強固なものとし、中心市街地全体のにぎわいの波及を目指します。特に、駅西口においては、整備コンセプトや整備方針の実現に向け、人が主役になる駅前広場への再生、老朽化した北上開発ビルの再生を中心として、都市機能と都市基盤の再編を一体的に展開していきます。

過去に本市が行った調査では、将来の土地利用転換や都市計画道路ネットワーク整備の影響を受け、駅前空間に流入する通過交通が増加する懸念が確認されています。駅前のにぎわいづくりの観点からは、この通過交通の処理は重要な視点となります。

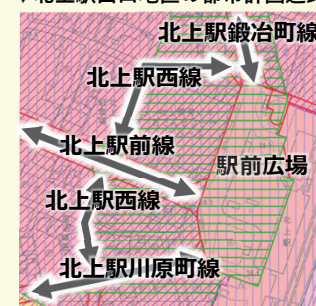
この交通処理のため、駅西口への主動線としての北上駅前線の機能を維持しつつ、北上駅川原町線・北上駅鍛冶町線の各路線の役割分担により、駅西口における交通動線の整序を検討します。この役割分担を実現するため、既存の道路ネットワークの活用に加え、新たな動線確保を図ります。

こういった動線の再編に向けて、駅西線の交通処理機能を強化（拡幅・線形変更）することにより、駅前の空間を分断する通過交通を排除し、駅西口における一体的なにぎわい空間の確保を図ります。

▼北上駅西線の機能拡充の考え方



▼北上駅西口地区の都市計画道路

バイパス整備
(駅西線の拡幅・線形変更)
(幹線街路への位置づけ)

人が集う拠点の整備

- ・通勤・通学の途中に気軽に立ち寄り、思い思いに過ごすことができる環境を整備します。
- ・地域コミュニティ活動や自己実現など、市民の活動を生み出せる場を整備します。
- ・市民や来訪者の目的地となるような拠点を官民連携で整備します。

【地域交流機能】

- 駅前を行き交う市内外の方が気軽に立ち寄り、**くつろげるオープンな空間**

【生涯学習・市民活動機能】

- 市内で行われる**市民活動に関する情報**に触れられ、**多目的に活用可能な空間**

【人材育成機能】

- 一人や複数人に対応する**学習スペース**
- 地域の将来を担う**人材を育成するための教育施設**

【健康・医療機能】

- 公共交通結節点の強みを活かした**クリニックや薬局**

【おもてなし関連機能】

- 快適な滞在に資する**軽飲食・物販施設**



憩える空間の中で人がふれあうオープンスペースの整備

- ・北上市のエントランスに相応しい駅前景観や潤いのある空間を整備します。
- ・駅から中心市街地にかけて、イベントや休憩・待合せのように多目的に活用可能なオープンスペースを配置し、人々の活動が生み出すにぎわいを視認しやすい空間を整備します。

【レクリエーション機能】

- 多世代が**気軽に運動・スポーツ・レクリエーション**が楽しめる空間
- 伝統・文化を感じることのできる**イベント**、キッチンカーでの出店や軽トラックによる野菜販売等が開催できる**多目的な空間**
- 訪れた人が憩える緑豊かな**オープンスペース**



人を中心とした交通機能の再編

- ・現在の駅前広場及び周辺のインフラを一体的に再配置することで、クルマ中心から人中心の空間へ、歩行者の移動しやすさを重視した交通結節点として再編整備します。
- ・交通結節点として、各交通モード間の快適な乗り換え動線や待合機能等を整備します。

【交通結節機能】

- 道路における**歩行者を優先した空間**づくりの検討と道路空間を活用した**にぎわいづくり**
- 適正規模への**駅前広場再編整備**による**シームレスな乗り換え環境**と快適な公共交通の**待合スペース**の確保



整備方針1

整備方針2

整備方針3

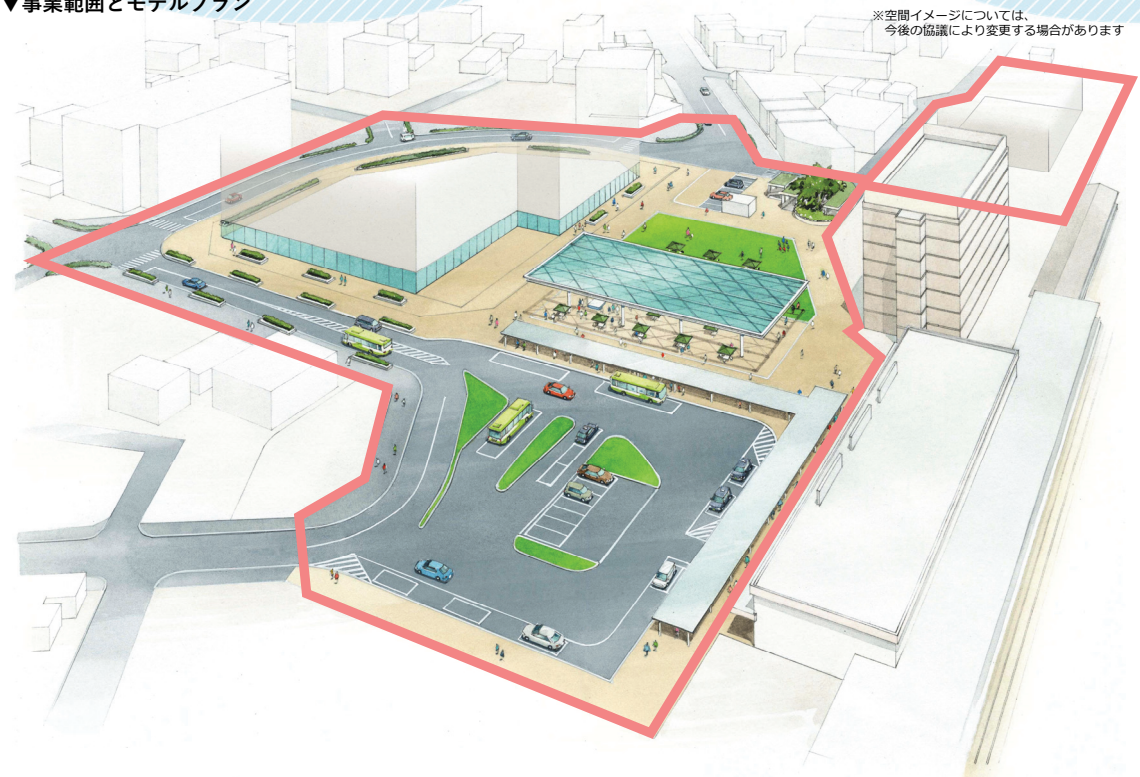
■実現のための手段～整備エリア及び将来イメージ～

れまでに掲げたコンセプトや方針に基づき、このグランドデザインにおける整備エリアは、右図で囲んだ範囲を最大の範囲として検討していきます。また、駅前再生の中核を担う駅前広場の運用や北上開発ビルの運営者をはじめとするステークホルダーとの協議・調整を継続的にいながら、グランドデザインに位置づけた内容の実現に向けて、検討を深度化していきます。

▼駅西口の将来イメージ



▼事業範囲とモデルプラン



■事業推進に向けて

今後の事業実現に向けて、駅西口に導入すべき都市機能を精査しながら、表に記載のある手法を中心として最適な市街地整備手法を選択するとともに、特に新しい建築物の整備については官民連携手法の併用も含めて事業化を検討していきます。

本グランドデザインの実現に向けた検討課題は以下のようにあげられます。社会経済情勢の変化を十分に踏まえつつ、本市の関連プロジェクトとの連携をとりながら、グランドデザインの実現に向けて検討を深度化していきます。

▼事業手法の比較

事業手法 (根拠法)	市街地再開発事業 (都市再開発法)	土地区画整理事業 (土地区画整理法)	道路事業 (道路法、都市計画法)
概要	● 公共施設の整備に併せて建物を共同化・高度化する立体的事業	● 公共施設整備に併せて宅地を再配置する面的事業	● 主に道路や駅前広場のみを整備する線的事業
対象	解体・撤去	○(支障建物のみ)	○(支障建物のみ)
	基盤整備	○(面的)	○(線的)
	建物新築	○	×(別事業で整備)

※それぞれに定められた事業要件があります

○ステークホルダー間の合意形成

北上駅西口地区まちづくり協議会をはじめ各事業者等との対話を重ね、丁寧に合意形成を図ります。

○エリアマネジメントの推進

きたかみ朝市やウォークアブル化にむけた社会実験といったエリアマネジメントの取組を通して、まちづくりのプレーヤーを発掘しつつ、コミュニティ形成を推進します。

○事業スキームの精査

庁内の関連プロジェクトと足並みを揃え、社会経済情勢を捉えながら事業スキームを精査し、着実な事業進捗に結びつけます。

【参考】グランドデザイン策定の経過

このグランドデザインの策定にあたり、市民や利用者へのアンケート調査・ワークショップ、パネル展示など、意向集約や情報発信に取り組んで来ました。あわせて、民間都市開発事業者との意見交換も進めています。今後も事業進捗に応じてこういった取り組みを継続していきます。

また、北上駅西口では、北上開発ビル(おでんせプラザ)の今後の開発の方向性を検討する「北上駅西口地区まちづくり協議会」を2024年6月に設立しています。この協議会の場で、本グランドデザインの内容も踏まえながら、整備手法などについて深度化していきます。

▼高校生ワークショップ

2024年9月



▼職員ワークショップ

2024年10月

